

大阪港の客船ターミナルオープンセレモニー

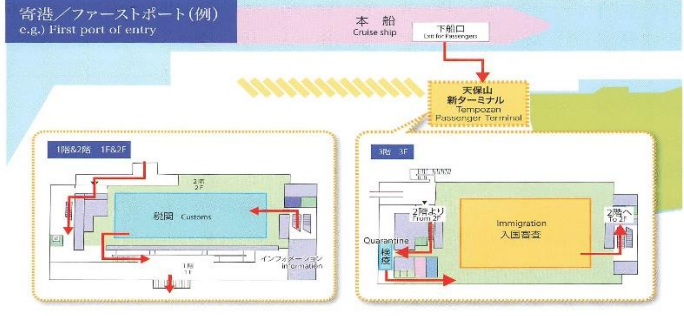
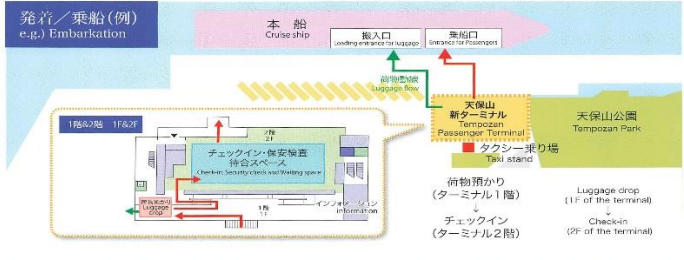
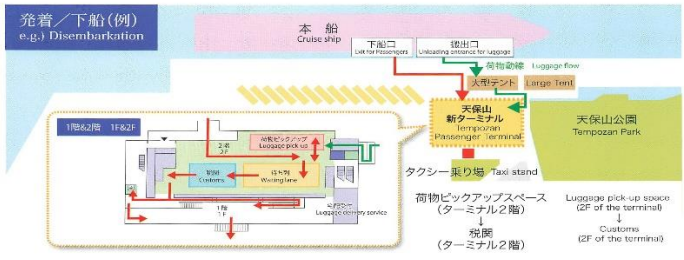
2024.5.6 池田良穂

ゴールデンウィーク中の5月5日の午後、大阪港の客船ターミナルのオープンセレモニーが開催されました。当日は、セレブリティ・クルーズの9万総トン級「セレブリティ・ミレニアム」が寄港しており、天保山周辺は子供の日の休日を楽しむ家族連れと、同船の乗客で賑わう中でのセレモニーとなりました。

場所がかつての徳島航路の高速船乗場のあった場所で、天保山マーケットプレース、海遊館に隣接しています。地下鉄の大阪港とも近く、高速道路の出入口も近く便利な場所です。

ターミナルの建物は、鉄骨構造の3階建てで、延べ床面積は約5800m²。2階と3階がCIQおよびチェックインカウンターとして利用され、さらに岸壁側に荷物が並べられる大型テントが設けられています。







当日、天保山埠頭に停泊していたのは「セレブリティ・ミレニアム」。渡し船の上から、梅田直哉会員の撮影です。



3階のホールで、14時半からセレモニーが開催されました。



テープカットは、吉村大阪府知事、横山大阪市長、遠藤日本外航客船協会会長、堀川日本国際クルーズ協議会会長他によってなされました。

セレモニーの中で、筆者は基調講演をさせていただき、クルーズの現状や、クルーズ客船

が及ぼす経済効果、天保山客船ターミナルの寄港港および発着港としての強みについて説明し、そして大阪湾全体で3つの空港そして港と連携して広域でクルーズ振興に取り組んでほしいとの思いから2018年の日本クルーズ&フェリー学会総会講演会で提案した「大阪湾クルーズベイ構想」についても触れました。最後に、今年4月の時点で、世界では81隻の新造船が発注・建造中であることも紹介し、23万総トン級の超大型クルーズ客船がアジア水域に登場する日も近いこと、また「飛鳥Ⅲ」のような日本の誇る新造クルーズ客船の登場にも期待がつのるとして講演を終わりました。

当日の講演に使用したパワーポイントも添付しておきますので、お暇な時にご覧ください。



オープニングセレモニーでは、セレブリティ・クルーズのウェンディ・ヤマザキアジア地区副社長の挨拶もありました。

セレモニーに続くレセプションでは、丸山順也大阪港湾局長、Pierre Caruana セレブリティ・ミレニアム船長のご挨拶がありました。



丸山大阪港湾局長



Pierre Caruana セレブリティ・ミレニアム船長



記念品の贈呈式で並ぶ丸山局長(右端)と「セレブリティ・ミレニアム」の士官と、ミレニアム・クルーズの方々。左から2人目がウエンディ・ヤマザキ副社長。